



学校だより

令和4年4月28日発行



教科分担制と主体性

校長 中村 智

始業式、入学式から、ちょうど3週間が過ぎ、新緑の葉が茂る季節となりました。

この3週間で、子どもたちは、各クラスで自己紹介をしたり、ともに学習や活動をしたりして、互いのことが分かり、交友関係も広がりつつあることだと思います。

日々の授業も本格的に始まっています。

横浜市立学校カリキュラムマネジメント要領では、年間、1年生870時間、2年生930時間、3年生980時間、4年生1015時間、5年生1015時間、6年生1015時間の授業時数が示されています。授業を通して、子どもたちが「分かる喜び」「できる喜び」をさらに感じることができるよう努めてまいります。そのための手立ての一つが、3年生～6年生で取り入れている「教科分担制」です。学級担任だけで教科指導をするのではなく、同学年の担任や専科の教員で教科を分担し、教科指導にあたります。

例えば6年生では、次のように教科を分担しています。

| | |
|------------------------------------|----------------|
| 国語：各学級担任 | 音楽：音楽科専科 |
| 社会：3組担任 | 図工・書写：1組担任 |
| 算数：少人数指導 (3学級を4グループの少人数に分けての指導) | 家庭：家庭科専科 |
| 理科：高学年チームマネジャー | 体育：各学級担任 |
| | 外国語：2組担任 |
| | 特別の教科 道徳：各学級担任 |

教科以外の、「総合的な学習」「学級活動」は、基本的に各学級担任が指導します。

このように、複数の教員で指導支援にあたります。教科指導に限らず、生活面、行動面の指導や支援においても、このチームで学年全体の子どもたちを観察し、声をかけたり、励ましたり、助言したりしていきます。

また、昨年度末、教職員で「洋一小の子どもたちに育てたい力」について検討しました。その一つが『主体性』です。説明や指示をしっかりと聞いて、それを行動に移すことができる洋一の子です。さらに、自ら考え、判断し、主体的に学び活動できる力を一層育てていきたいと考えています。この力をつけるべく、教科の中で重点的に研究している「国語科」を中心として、学習の中でこの力をさらに伸ばせるようにしていきます。また、学校行事や学級活動、委員会活動等でも、『主体性』を高められるよう指導支援していきたいと思ひます。

1棟と2棟の間には、春風を受けて、こいのぼりが泳いでいます。

「ひびきあい かかやく 洋一の子(学校教育目標)」の健やかな成長を、保護者の皆様、地域の皆様とともに願ひたいと思ひます。

